

2022年春季研究集会 プログラム ・ 発表要旨

日時: 2022年3月5日(土) 13:00~16:50 予定

会場: ZOOM Meeting

サイト: サイトはメールマガジン等でお送りします。

《プログラム》

13:00~13:05 会長挨拶 (大坂洋 本学会会長)

13:05~13:10 韓国経済教育学会会長挨拶

司会 宮下春樹 (城西大学) *研究発表 25分。質疑 15分

13:10~13:50 「微積分を使わない新貿易理論の骨子を学べる練習問題開発」(小川健)

13:50~14:30 「The Effects of the Flipped Classroom and Online Education」(市野泰和)

14:30~15:10 「『coreecon』第8章による有意義なオンライン講義を目指して」(土居拓務、水野勝之)

15:10~15:20 コーヒーブレイク

司会 高橋勝也(名古屋経済大学)

15:20~16:00 「奨学金制度の理解と金融リテラシーの関連」

(高橋桂子、阿部信太郎、猪瀬武則、小川正人)

16:00~16:40 「経済的エージェンシーの体現者としての渋沢栄一の教材化」(山根栄次)

16:40~16:50 「事務局連絡」(久井田直之 本学会事務局長・日本大学)

「全国大会案内」(水野勝之 2022年全国大会実行委員長・明治大学)、
閉会挨拶

《実行委員長》 阿部信太郎(城西国際大学)

発 表 要 旨

	発表者	タイトル 【キーワード】	発表要旨
1	小川健 (専修大学)	微積分を使 わない新貿 易理論の骨 子を学べる 練習問題開 発 【収穫逡増, 多様性の選 好, 自国市場 効果】	多様性の選好を反映した新貿易理論は財の数の増加を積分の範囲の長さで表現してきたことから、微積分を知らないと新貿易理論は概念的な話と結果のみしか説明できなかった。そのため微積分を知らない場合には、練習問題等で解いて理解させることは新貿易理論については困難と考えられてきた。今回、2国それぞれが、その国で作れる3種類の財のうち1種類の財はその国でしか作れない財を用意し、その財を含む(各国異なる)2種類の財に集中する形を取り、効用に(各財の消費量+1)の積を取ることで、収穫逡増の性質を活かしてたとえ氷解型輸送費を入れても貿易における消費可能な財の種類(3種類⇒4種類への)増加による貿易の利益に繋がる練習問題を考案・開発した。鉄道型を取り入れた輸送費最小による立地選択で、大市場地近くでの生産を志向する意味での自国市場効果とも整合的で、電卓利用も最小限(原理的には不要)にする練習問題を開発・考案した。
2	市野泰和 (立命館大学)	The Effects of the Flipped Classroom and Online Education 【反転授業, オンライン 授業, ラン ダム化比較】	ランダム化比較試験の実施が可能な授業フォーマットを利用して、経済学入門の授業において反転授業が大学学部生の学習成果におよぼす効果を推定した。さらに、コロナ禍によって大学授業がオンライン化されたことから、自然実験としてオンライン授業の効果も検討した。おもな結果は次のとおりである。(1)対面形式での反転授業は学習成果にマイナスの効果を持つが、オンライン形式での反転授業は学習成果にプラスの効果を持つ。(2)反転授業もオンライン授業も学習努力に有意な効果を持つが、それらが最終的に学習成果に反映されることはほとんどない。したがって、これらの授業形式が学習成果におよぼす効果は、授業時間外の予習復習を媒介したものではなく、授業時間中に生じているものだと考えられる。

3	<p>土居拓務 (明治大学(兼)) 水野勝之 (明治大学)</p>	<p>『coreecon』 第8章による 有意義なオ ンライン講 義を目指し て</p> <p>【Coreecon ，機械学 習，講義紹 介】</p>	<p>報告者は2020、2021年度に明治大学商学部第3、4学年を対象とした必修科目(外国専門書講読)においてWEBテキストである『CORE - Economics for a changing world (coreecon)』のUNIT.8 (Supply and demand: Price-taking and competitive markets)を講義に活用した。本講義は英語で経済学理論を学習する趣旨であるが、その内容を正しく理解するためには一定の英語力と経済学知識が要求される。内容を正しく理解するにあたり要点になる経済学知識は何であろう。また、内容理解にあたり求められる英語力の程度はどれほどであろう。これらの疑問に対して機械学習(machine learning)を含む計量的アプローチから考察を試みた。本報告では、実際に行った講義方法を紹介すると同時に、現時点で得られた考察の結果について共有する。</p>
4	<p>高橋桂子 (実践女子大学) 阿部信太郎 (城西国際大学) 猪瀬武則 (日本体育大学) 小川正人 (環太平洋大学)</p>	<p>奨学金制度 の理解と金 融リテラシ ーの関連</p> <p>【日本学生 支援機構、貸 与型奨学金、 debt リテラ シー】</p>	<p>親世代の世帯収入が減少して仕送りが減少している。大学生の2人に1人は奨学金を利用し、その9割が日本学生支援機構のものである。親世代の大学進学率は、男親が4割、女親が2割であり、日本育英会(当時)の利用率が2割と、親子で大学進学環境は大きく異なる。</p> <p>日本学生支援機構の奨学金申請の多くは高校3年春に行う。家庭でお金に関して話をする慣習がなく、教科書も奨学金に関する記述が少ない中、彼らは返済に関して具体的なイメージが湧かないまま、貸与金額を記入することになる。奨学金を借りているから、効率的な家計管理の仕方や学習意欲が湧くというプラスの効果より、借金に対する「不安」が募るといふマイナスの効果の方が大きくなるだろうか。</p> <p>我々は2022年2月、日本学生支援機構の貸与型奨学金(第二種)の利用者と非利用者を対象に奨学金に関するインターネット調査を行った。その結果概要を発表する。</p>

5	<p>山根栄次 (元三重大学)</p>	<p>経済的エージェンシーの体現者としての渋沢栄一の教材化</p> <p>【エージェンシー、起業家精神、渋沢栄一】</p>	<p>これからの日本・世界の教育の在り方を示した重要な文書として、OECD (2018) “Education2030: Future of Education and Skills. Position Paper ” (白井俊 (2020) 『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来』)がある。この中の最重要な用語の一つが「エージェンシー」である。エージェンシーは、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」と定義されている。この概念を経済教育の観点からとらえると、その典型は、「(心温かい) 起業家精神」になると発表者は考える。若い世代に「(心温かい) 起業家精神」を育てる経済教育においては、その具体的な体現者を示すことが重要である。発表者は、その具体例として渋沢栄一を考える。本発表では、渋沢栄一を教材とする経済教育のプランを提示する。なお、この発表は、研究代表・猪瀬武則、科学研究費・基盤研究 (B)、課題番号 (20H01686)、研究課題「経済的見方・考え方を働かせた心温かいエージェンシーの育成をはかる経済教育内容開発」の研究成果の一部である。</p>
---	-------------------------	---	---